

# まちの魅力向上 プロジェクト答申概要

小樽駅前広場と駅前第1ビルの再々開発プランを検討する「まちの魅力向上プロジェクト」では周辺エリアの交通拠点機能、観光機能等の高度化に係る再々開発プランをとりまとめ、山本会頭に答申しました。

## 検討対象エリア

「駅前第1ビル」「野口病院」「樽石ビル」「樽石駐車場」「小樽駅構内立売商会」「小樽経済センタービル」を含む約5,000㎡を対象としています。

※小樽経済センターは、駅前再開発が今後の小樽のまちづくりに大きく資する事業であり、駅前再開発の完了まで10年近くを要すると考えられる中、現在築35年を経過し、今後維持・補修費用が増えていくことが予想されることから、再開発エリアに含めていますが、小樽商工会議所内で正式な検討を行ったものではありません。

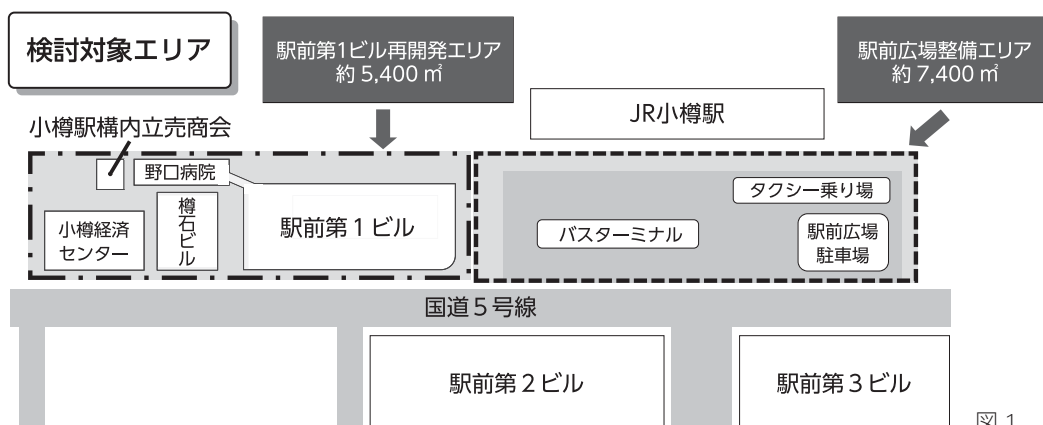


図1

## 小樽駅前広場の再整備

現在の小樽駅前広場は、バス、タクシー、一般車、歩行者が混在し、危険な状況が続いています。

また、観光客の玄関口でありながら、人の滞留スペースが少ないという課題があります。

これらの課題を踏まえ、次のとおりポイントを整理し、再整備案をまとめました。

- ① 歩行者と車両の動線を分けて、歩行者の安全性を確保
- ② 人の滞留と、にぎわいを創出するスペースを確保
- ③ バスターミナル及びタクシー乗降場、駐輪場を設け、利用者の利便性を確保
- ④ 一般車両の乗降レーンを設け、駅利用者の利便性を確保
- ⑤ 駅前広場内の一般駐車場は広場外に移動
- ⑥ 海が見える景観を活かした駅前広場を整備

## 駅前第1ビルの現状

駅前第1ビルは、昭和48（1973）年に完成しました。延床面積約1万3,600㎡の地下1階、地上9階建てで、現在、地下1階、

地上4階にはバス待合所や商業施設、病院、事務所が入居しています。5階、9階には市営住宅（50戸）があります。

## 駅前第1ビルの再開発

駅前第1ビルは、老朽化が進行しています。小樽はこれから観光が重要な基幹産業の一つになることから、駅の交通結節点である駅の優位性を活かし、必要な機能を盛り込んだ高度化が求められていると考えます。

小樽市が「第2期小樽市総合戦略」において「観光客受け入れ態勢の整備」や「子どもを産み育てやすい環境づくり」を掲げていることや、小樽市と小樽商科大学が行った市民へのアンケートでは、「子どもの遊び場・公園の充実度」に対する満足度が低いという結果が出ていること、駅前周辺に子どもの遊び場や学生など若者が集う施設が不足していることから、再開発ビルの方向性を「観光の高度化を図り、子育て世代や若者が集う、にぎわい創出空間」と位置づけ、必要な機能や施設を次のとおりまとめました。